

宮城県名取市関上地区における震災復興の変遷

永野 心治

(西松建設株式会社 北日本支社 名取工事事務所長)

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、宮城県名取市関上地区は甚大な被害を受けた。その関上にて、当社は震災発生当初から行方不明者捜索・家屋解体・がれき運搬・震災廃棄物処理施設の建設と廃棄物処理業務・被災市街地復興土地区画整理事業を担当し、令和 2 年 11 月 30 日のまちづくり完了までの約 10 年間、発注者はそれぞれ工事毎・業務毎で異なるが名取市関上地区の一連の震災復興事業に携わらせていただいた。本稿では、その宮城県名取市関上地区の復興の変遷について報告する。

1. 東日本大震災による被害状況

東日本大震災は、2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生し、宮城県名取市では、震度 6 強を観測し、本震発生後約 1 時間後津波は到達した。最大浸水高は 9.09m となり、最大浸水距離は地上 5.5km、河川においては、名取川約 8km、増田川約 7.4km にも及び、死者 911 名、住宅被害は 13,991 件という未曾有の被害をもたらした。(写真-1、写真-2、写真-3)

津波発生当日より、自衛隊と共に行方不明者捜索とガレキ集積を行い、名取市関上地区では当社を含めた名取市の地元建設業者 24 社が災害援助チームを発足し、名取市発注の委託業務を開始した。



写真 1 東日本大震災時の関上地区



写真 2 東日本大震災前の関上地区



写真 3 東日本大震災後の関上地区

2. まちづくり

(名取市関上地区被災市街地復興土地区画整理事業)

2011年10月19日に宮城県発注の災害廃棄物処理業務を当社JVが受注し、がれき処理業務を行った。2014年9月2日には名取市発注の土地区画整理事業を設計・施工一括型工事を当社JVが受注した。受注から2020年10月31日までの約6年間で居住エリア（嵩上げ高さ：平均5.0m）56.8haを含む114.5haの工事を行った。

この工事は、通常の土地区画整理事業とは全く異なった被災地特有の様々な事情を含んでいた。例えば、工事エリア全域に亡くなった方々の慰霊碑やNPOなどの支援施設、未撤去の被災構造物等が散在し、用地未取得エリアも多数存在していたため、ファストトラック方式による工事の進捗は困難な状況であった。また、工事箇所は震災で多数の方々が亡くなられた場所でもあり、被災者の方々のそれぞれ思いや事情があり、理解を得るまで多くの時間が必要であった。このため1日でも早く事業を完成させ被災者の方々に安心して住める街を提供するためには、住民の方々の協力を得ながら様々な諸問題が解決しなければならなかった。以下の基本方針に従って継続した対策を実施した。

1. 被災者の気持ちに寄り添い復興への思いや要望を聞き取り可能な限り計画に反映させる。
2. 住民の方々へ工事計画や工事の進捗について丁寧に説明を行う。
3. 住民の方々と親睦を深め良好な関係を維持し工事への理解と協力を得る。
4. 発注者と綿密な協議を行い工事の優先順位を再考しながら施工を進める。

これらは通常工事の地域貢献やイメージアップとは異なり、地域住民の方々の思いを理解し共に関上地区の復興を進めるうえで重要な対応であった。以下に実際に行った取組み事例を説明する。

1) 遺品搜索

遺品搜索は被災者からの強い要望事項であった。事前にボランティア・NPO等で地表面の搜索はなされていたが、暗渠管内・建屋基礎下等の工事に伴わないと視認できない部分に関しては、残渣の集積・手選別篩分けをNPO団体も参加し遺品搜索を丁寧に実施した。この確認が終了したエリアから順に工事着手した。搜索できた遺品類は警察へ届出ることができた。



写真4 遺品手選別

2) 現場説明会

今回の事業では、早い段階から現地説明会を実施した。これは地域住民からの「津波に耐えうる街とは、どのように作っているのか、どんな風に出来上がるのかを教えて欲しい」という強い要望があり、工事の進捗に応じて丁寧な説明会を何度も開催した。特に、約5.0mの嵩上げとはどんなものなのか、そこからどんな風景が見えるのかを体感したいという事もあり、一部嵩上げが終了した宅盤を早期に準備し、住民の方々を招き定期的に見学会を実施し理解を得ることができた。



写真5 現場説明会状況

3) 3.11 メモリアルイベント

2014年から毎年、NPO団体による3.11追悼イベントの「名取市関上中学校 追悼の集い」の支援を行った。区画整理地内の旧中学校グラウンド整備やイベントへの協力を行い、地域の方々と共に震災で犠牲となった方々の追悼を行った。

4) ひまわりプロジェクト

震災発生の年に、名取の復興・活性化を徹力ながらも助けたいこうという発想から、発足したプロジェクトである。毎年6月に、東京他各地で育てられたひまわり苗を被災地関上に植樹し、その種をまた全国の有志に育苗を依頼し、「ひまわりのリレー」を行うものであった。

プロジェクトの開催時には名取市長をはじめとして弊社社長・社長も参加する定例一大行事にもなった。毎年、イベントを開催するため、工事の進捗を調整し優先的に敷地の整備提供を行った。被災者の方々も毎年多数参加していただき親睦を図ると共に工事への理解と協力を得ることができた。

5) 関上朝市の復活

当地は東京の市場にも出荷している赤貝を始めとした海産物の名産地であり、これらを扱っている「関上朝市」は地域の名物の一つであった。震災直後は内陸部のショッピングモール駐車場を間借りして再開し、その後、様々な障害を乗り越え、工事着工前には元の場所での再開も果たした。工事を進めるうえで、朝市の営業を阻害しないようにすることが命題とされ、動線確保・臨時駐車場の設置・イベント時の敷地提供など有形無形の協力を行い、一体となって朝市を盛上げ地域の活性化に協力した。

6) メモリアル公園

整備区域内に震災メモリアル公園を構築した。公園内に配置するモニュメント等は、発注者を始めとしてまちづくり協議会の方々と何回も話し合いを重ね、震災前の街並みが思い出される施設や後世に被災の記憶を残せるような特徴的な公園計画を立案した。

7) 復興マラソン

2017年10月には被災地の復興喚起の一環として、復興マラソンが行われた。この大会は国際規格に則ったも



写真6 JV職員による鳩型エコロジー風船飛ばし



写真7 ひまわりの苗植付状況



写真8 朝市と迂回路



写真9 メモリアル公園

のでありフルマラソン・ハーフマラソン等様々な世代のランナーが参加できるものであった。現場の中にある日和山が折り返し地点となり、復興を間近に直接見て頂ける貴重な機会となった。この大会を実現するために工事の進捗を調整しコースの整備などを優先的に実施した。当社からも多くの職員が参加しイベントを盛り上げた。

8) 復興達成宣言

工事開始より様々な取組みを行い当初計画通りに事業を進捗させることができた。紆余曲折を経て事業4年経過後に、「復興促進イベント」を、5年後には復興達成宣言が行われた。その際には、名取熊野那智神社 創建1300年という節目と縁のある関上のまちびらきに合わせ、21年振りとなる「お浜降り」を執り行い、地域の方々と共に当社の工事関係者もその神輿担ぎの一員となって復興の達成を祝った。

震災より10年、長く仮設住宅で不自由な生活を強いられていた住民の方々が、新しく完成した街で安心した生活を始められたことは、施工者としての最大の喜びであった。

おわりに

本稿は、東日本大震災によって被災した名取市関上地区の震災から復興までに、我々が事業を通して取組んだ内容を抜粋してとりまとめたものである。震災より10年の歳月を経て収束に向かうものの、被災された方の心はまだ完全に復興していない。当社のような建設会社が安心・安全な暮らしが確保できるインフラを整備していくことがハード面の使命であると同時に、被災者の声を聞き、同じ目線・感覚を持って寄り添いながら事業を進める事がソフト面の使命であったと考える。

最後になりましたが、改めて被災された多くの方へのお見舞いを申し上げます。



写真10 スタート地点にて記念撮影



写真11 復興促進イベント



写真12 復興達成宣言「お浜降り」の神輿

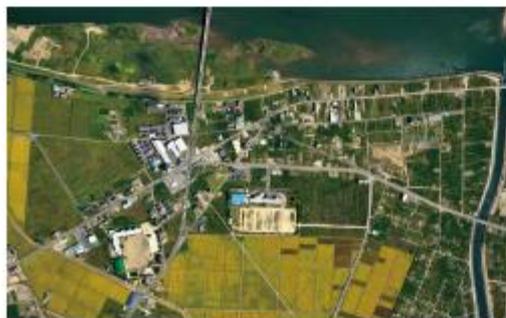


写真13 関上地区着工時 (2014年9月)



写真14 関上地区完了時 (2020年10月)